

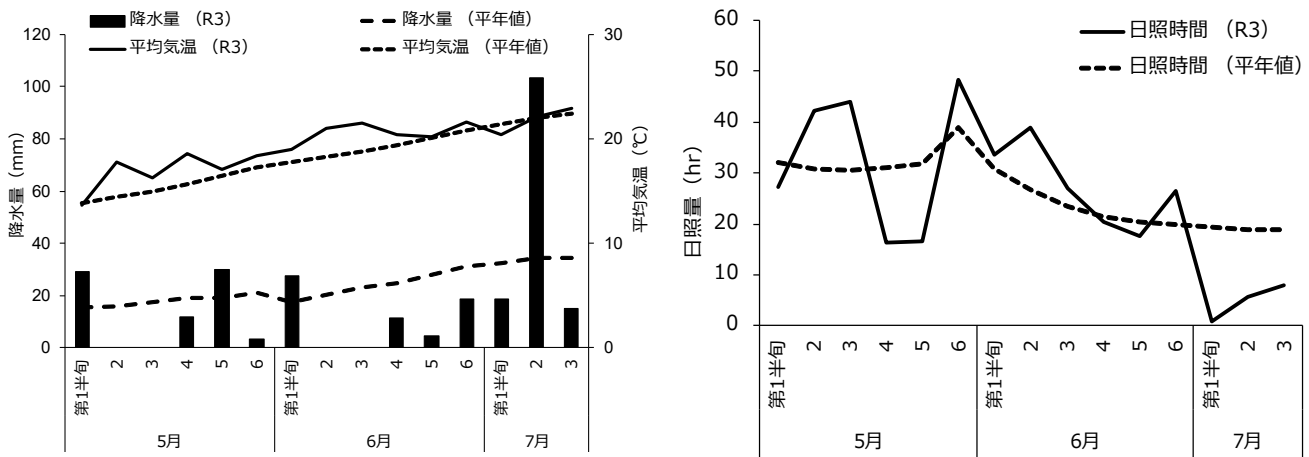
仙台稲作情報2021（第7号）

宮城県仙台農業改良普及センター TEL：022-275-8410 FAX：022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail：sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷出穂期が早まる見込みです。追肥や斑点米カメムシ類の防除等は、生育ステージを確認して実施しましょう。
- ▷適切な水管理により高温障害を回避しましょう。

1 気象経過



2 管内の生育状況（7月20日の調査結果）

(1) 移植栽培（ひとめぼれ）

- ・草丈は74.8cm（管内平均）で前年及び平年並、茎数は508本/m²（同）で、最高分けつ期を過ぎていることから前回調査より減少しています。葉色（GM値）は36.6で、減数分裂期の目安（35～37）を確保しています。
- ・3cm以上の幼穂長が確認され、「減数分裂期」に達しています。前年より幼穂の伸長は進んでいます。

表1 7月20日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)			幼穂長 (mm)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区蒲生	5月15日	71.1	108	104	429	106	105	36.0	-0.9	-2.1	61.9	+51.9	+40.7
	北部平坦	大郷町鶉崎	5月12日	81.0	113	100	505	78	120	38.2	-0.2	-2.7	52.7	+47.7	+52.7
	西部丘陵	仙台市泉区福岡	5月13日	72.2	103	100	589	130	120	35.5	-4.3	-2.7	178.9	+116.1	+127.7
	管内平均			74.8	108	102	508	105	112	36.6	-1.8	-2.4	97.8	+71.9	+73.7
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区荒井	5月11日	76.4	97	102	478	89	102	36.7	-1.0	-1.9	79.9	+48.4	+37.9
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5月14日	76.1	104	102	359	79	90	36.8	-1.0	-1.7	9.7	+6.5	+7.1
	仙台湾沿岸	仙台市若林区三本塚	5月18日	81.3	117	102	443	95	90	40.5	+2.5	-1.7	6.9	+2.5	+6.9
	管内平均			78.7	111	102	401	87	90	38.7	+0.8	-1.7	8.3	+4.5	+7.0
つきあかり	北部平坦	大郷町山崎	5月14日	97.3			374			40.8			196.4		
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区七郷	5月25日	70.4			418			38.1			4.6		

※平年比差は、平成30年から令和2年の3カ年平均値との差

(2) 湛水直播栽培

草丈は67.5cm（前年比88%）、茎数は429本/m²（前年比81%）となっており、生育は前回より回復しました。葉色（GM値）は42.3で、概ね目標としている葉色を確保しています。幼穂長は3.7mmで前年の2.0mmを上回りました。

表2 7月20日の調査結果

品種	地帯	場所	播種日	草丈 (cm)		莖数 (本/m ²)		葉色値 (GM値)		幼穂長(mm)	
				本年	前年比 (%)	本年	前年比 (%)	本年	前年差	本年	前年差
ササニシキ	北部平坦	大和町落合松和田	5月3日	67.5	88	429	81	42.3	+1.2	3.7	2.0

※令和2年度から調査ほ場及び品種を変更したため、平年値はありません。

3 地帯別生育ステージの予測

管内における出穂期の予測は以下のとおりです。

表3 出穂期の予測

出穂始期	出穂盛期	出穂終期
7/25	7/27	8/3

※出穂始期、出穂盛期、出穂終期は、それぞれ水稻作付見込面積の5%、50%、95%以上が出穂した日

予測時の条件

- ①移植時期「R 3年管内平均値」
- ②植付時の葉数「R 3年県平均の3.0葉」
- ③7月19日まで「仙台アメダス」データ実測値使用、7月20日以降は「仙台アメダス」平年値使用

4 本田管理

移植栽培

(1) 水管理

- ・出穂期までは飽水管理とし、土壌を酸化的に保ち根の活力を維持しましょう。
- ・出穂後は、登熟の良化及び根の活力維持のため間断かんがいを実施しましょう。
- ・出穂後5～15日の最低気温23℃以上が連続する高温の場合、白未熟粒が多発し、品質の著しい低下を招く危険性があります。緊急的な対策として、十分な用水量を必要とする「掛け流しかんがい」よりも効果は小さいものの、①走り水により土壌をつねに湿润状態に保つ「保水管理」または②高温時の昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする「昼間深水・夜間落水管理」が有効です。

(2) 追肥

- ・ほ場をよく観察して適切な追肥を行い、**穂揃期の葉色維持**に努めましょう。
- ・ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合または復元田の場合は、倒伏が懸念されるため、原則として追肥は行いませんが、葉色が落ちる場合は、追肥を検討しましょう。
- ・だて正夢は葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ色が濃くなり、追肥を抑えられがちですが、穂揃期の葉色維持による登熟向上に向けて適正な追肥を実施しましょう。
- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移しますので、追肥をする際は葉色に注意しましょう。

表4 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	30～120mm	-10～0 cm	15～10日

表5 生育ステージにおける葉色の目安 ※葉緑素計 (SPAD値)

品種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38～40	35～37
ササニシキ	34～36	32～34
だて正夢	40～42	37～39
金のいぶき	33～35	30～32
つや姫	35～37	31～33
まなむすめ	35～37	36～38

表6 追肥の目安

品 種	窒素施用量（成分量/10a）	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ・金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0～1.5 kg
つや姫・まなむすめ	2.0 k g	—
だて正夢	— （茎数が少ない場合は1kg）	2 kg （幼穂形成期に1kg追肥 した場合は1kg）

（3）病害虫防除

①いもち病

- ・上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になるので、ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・特に、窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は、早期発見に努めましょう。
- ・また、追肥後は、一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。
- ・穂いもちの予防剤は出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。
- ・茎葉散布剤による穂いもち防除は、1回目の防除を出穂直前に、2回目を穂揃期に行い、葉いもちの発生が多く、穂いもちが多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く場合には、3回目を穂揃期の7～10日後に実施しましょう。

②紋枯病

- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、発生に注意しましょう。
- ・病害虫防除所による発生予報4号では、発生量が「やや多」の予報が発表されています。
- ・前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。なお、天候により**多発が予想される場合は、穂揃期にも追加で防除**しましょう。
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。



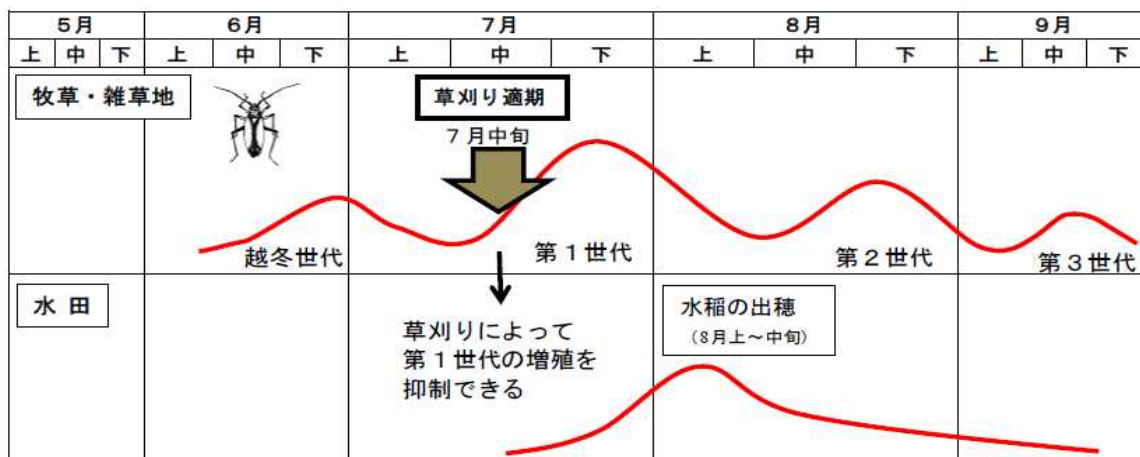
病斑

③稲こうじ病

- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多い条件下で発生しやすくなります。
- ・ほ場に残った菌核などが伝染源となるため、前年に多発したほ場では注意が必要です。
- ・銅剤は予防効果が高く、出穂20～10日前が散布適期です。出穂期が早まる見込みとなっていますので、散布時期に注意しましょう。

④斑点米カメムシ類

- ・水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うと水田内にカメムシ類を追い込むことになります。草刈りは**出穂の10日前まで**に終わらせましょう。また、草刈りの再開は9月に入ってからにしましょう。
- ・薬剤防除は、**穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本**です。2回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除を実施しましょう。
- ・イヌホタルイが発生した水田で除草できなかった場合は、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。



⑤コバネイナゴ

- ・病害虫防除所による6月25日発行の発生予察情報において発生量は「やや多」と予報されています。発生量に注意しましょう。

湛水直播栽培

(1) 水管理

幼穂形成期に入りました。中干し後の水管理は、1～3日程度走り水をしてから間断かんがいを実施しましょう。

(2) 病害虫防除

①いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が高く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすい傾向があります。ほ場を見回り、発病を確認したら直ちに茎葉散布を行い、発病が見られない場合は葉いもち予防剤を散布しましょう。

②イネツトムシ（イチモンジセセリ）

幼虫によるツト（苞）が散見されます。被害が大きく防除の対象となるのは第2世代幼虫期で、通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

③斑点米カメムシ類

移植栽培に比べて出穂期が遅れることから、散布適期を把握し実施しましょう。詳細は移植栽培の(3)病害虫防除④斑点米カメムシ類の項目を参考にしてください。

5 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（7/15仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- 向こう1か月の気温は高いでしょう。
- 期間の前半は平年と比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

■農薬危害防止運動実施中（令和3年6月1日から令和3年8月31日まで）

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は、農林水産省消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

次回の稲作情報第8号は、9月上旬の発行となります。